

施其力、是皆杜撰妄說先王孔子之道所無也、其意蓋以動容周旋中禮者爲聖人、是豈足以爲聖人哉、假使其果爲聖人、然其動容周旋所以中禮者、亦習以成德、則有不期然而然者已、豈容直就心施其工哉、夫先王之教、如化工生物習慣如天性、豈容力哉、宋儒之教、如工人作器、夫玉石土木、可攻以爲器、心豈玉石土木之倫哉、故先王之教、唯有禮以制心耳、外此而妄作、豈不杜撰乎、是其未發已發、戒懼愼獨之說、自以爲動靜不遺精密之至、而終莫有遵其教以造聖人之域者、可以知已、

〔日本書紀五〕崇神御間城入彥五十瓊殖天皇中略識性聰敏、幼好雄略、既壯、寬博謹愼、崇重神祇、下

〔類聚國史六十六〕天長七年四月癸酉、春宮亮從四位下藤原朝臣三成卒中略天資愼密、言語無瑕、

〔文德實錄四〕仁壽二年二月丙辰、散位從四位上和氣朝臣仲世卒、仲世中略奉公忠謹、每至寢臥、首向

宮闕、
〔三代實錄十六〕貞觀十一年八月廿七日壬子、從四位上行越前守源朝臣啓卒、中略爲人謹厚、諸昆弟

皆推敬之、

〔大鏡三太政大臣實賴〕をの、みやの南おもてには、御もと、りはなちて、いでさせ給事なかりき、そ

のゆゑは、いなりの杉のあらはにみゆれば、明神御らんずらん、いかでかなめげにてはいでん

との給はせて、いみじくつ、しませ給に、おのづからおぼしわすれぬるをりは、御袖をかづかせ

給てぞおどろきさわがせ給へる、

〔平家物語十一〕先帝御入水の事

新中納言知盛卿、小船に乗て、いそぎ御所の御舟へ參らせ給ひて、世の中は、今はかうと覺候、みぐ

るしき物共をば、みな海へ入て、舟のさうちめされ候へとて、はいたり、のこうたり、ちりひろひ、と

もへにはしり廻て、手づからさうちま給ひけり、

〔塵塚物語二〕本間孫四郎資氏馬藝事